

「村上春樹氏所蔵資料の寄贈と文学に関する
国際的研究センター構想についての記者発表」

村上春樹氏 会見全文

僕はいちおう早稲田大学文学部の映画演劇科を卒業しているんですが、あまり大学に出ていた記憶ってないんです。当時はストライキやら、ロックアウトやら、そんな状態がずっと長く続いていて、出席が足りなくても、レポートなんかで代わりたい通してくれたし、僕は途中で学生結婚して、そのまま仕事も始めちゃったもので、授業に出るような暇も実際なかったんです。それでもいちおう七年かけて卒業させてくれたんだから、ずいぶん寛容な学校だったのだと思います。

フランス文学の安堂信也っていう有名な先生がいて、僕はその先生のラシーヌの講義をとっていたんですが、そこにほとんど出席しなくて、でもその単位がないと卒業できなかつたんです。で、先生のところに行つて、実はこういう事情で、結婚していて、店もやっていて、授業に出る暇もなくて……と説明したら、じゃあ君のやっているその店に行ってみようっていう、少しあとで実際に来てくれたんです。わざわざ国分寺まで。で、「君もまあ大変だよな」と言って、ずっと単位をくれました。親切な先生でした。でも今だから言いますが、僕はラシーヌなんて一行も読まなかつたですね。

テストだって、何ひとつ勉強せずに行つて、問いにはまったく答えず、ぜんぜん関係ない好き勝手なことを、答案用紙に裏表ぎっしり書いて出したら、面白いといって及第点がもらえたりしました。

卒論も、参考文献なんて一冊も買わずに、一週間で適当なことをでっちあげて、原稿用紙百枚に書いて提出したら、担当の印南高一先生はAプラスをくれて、「君は是非ものを書く道に進むといい」とアドバイスしてくれました。そのときは「またこの先生、ぼけたこと言ってるよな」とか思っていたんですが、まあ今になってみると、当たっていたのかなあと。

当時の早稲田大学にはそういう「ちゃらんぽらん」というか、わりに自由な気風があつて、それは僕の性格にあつていたかなと思っています。

僕はもうかれこれ四十年近くものを書いてきまして、生原稿とか資料とか書簡とか関連記事とか、そういうものがかなり数多くたまっています。うちにも事務所にも置ききれないくらいです。僕は子供がいないので、僕がいなくなったあと、それらがばらばらになってしまわないように、散逸してしまわないように、できるだけひとつにまとめておかななくてはなと考えていたんですが、今回、たまたま僕の母校である早稲田大学がこのよう

な場所を作って、僕関連のアーカイブの管理を引き受けてくださることに
なり、それは僕にとってすごくありがたいことです。そういう施設が、日
本人でも外国人でも、僕の作品を研究したいという人々の役に立つとすれ
ば、またそれが互いの国の文化交流のひとつのきっかけになるとしたら、
それに勝る喜びはありません。

僕の本は50カ国以上の言葉に翻訳されていますし、また僕自身も長いあ
いだ熱心に翻訳の仕事をしてきました。自分は翻訳によって助けられ、
翻訳によって——つまり言語の交流というか、等価交換によって——育て
られてきたという意識が強くあります。日本文学の中だけにいたら、ある
いは窒息状態みたいなことになっていたかもしれません。そういう意味あ
いで、この場所が、文学や文化の風通しの良い国際的交流＝交換の場にな
ってくれればと願っています。またこの施設の中に、そういう交流を目的
としたセミナーみたいなものが開ける部屋を、是非作りたいと考えていま
す。それに関連して、ゆくゆくはスカラシップみたいなものを立ち上げ
られれば、言うことはありません。

それから欲を言えば、僕の集めたレコードや書籍なんかをストックした
書斎のような機能を持つスペースも設けたいんです。そこでたとえばレコ
ード・コンサートなんかも開けるといいですね。僕もそういうことにでき
るだけ積極的に関わっていければと思います。

さっきも言ったように、僕はあまり授業には熱心に出なかったんですが、
坪内逍遙記念館＝演劇博物館にはよく通って、そこで映画の古いシナリオ
を読んでいました。映画を観るお金のないときなんか、シナリオを読みな
がら頭の中で勝手に自分の映画を作っていました。そういう体験は小説家
になってから、少しは役に立ったかもしれません。そういうちょっとオル
タナティブみたいな、寄り道的な場所って、キャンパスにはやはり必要な
んですよね。僕はそう思います。

そういう風にいろんなアイデアやプランは次々に出てくるんですが、具
体的な詳細についてはまだ決定していませんし、資金的にもどれほどのも
のが集められるのか、明確にはなっていない段階です。今後どのように進
展していくかはわかりませんが、いずれにせよ、これまでにない意欲的な、
そして内外に向かって開かれた風通しの良いスペースを、早稲田のキャン
パスに立ち上げることができればと希望しています。皆様のご協力を賜わ
りたく思います。よろしくお願いします。

(2018年11月4日 早稲田大学にて)